

令和3年度学校評価（教育活動診断より）

12月に実施した「教育活動診断アンケート」へのご協力、ありがとうございました。今年度も子どもと保護者の両者に協力していただきました。2月24日に「学校関係者評価委員会」を開催し、5名の委員の皆様とアンケートの分析（※）を行いました。調査結果から見た傾向や特徴は次のとおりです。

分析については、教育活動診断アンケートの評価A（よくあてはまる）B（ややあてはまる）C（あまりあてはまらない）D（あてはまらない）とし、主としてAとBを合わせた数値を基に行っています。AとBは肯定的評価、CとDは否定的評価ということになります。本年度も、数字の4段階（1、2、3、4）で選択し、マークシートに記入する方法で実施させていただきました。それぞれ1はA、2はB、3はC、4はDに置き換えて、記載しています。

全体的な傾向・特徴

児童の回答では、肯定的評価80%以上が17項目中11項目、70%以上が17項目となっており、全体的には概ね良好であると考えます。一方、保護者の肯定的評価80%以上を示したのは20項目中7項目に止まっており、5項目で70%を下回りました。

本年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で、学校の教育活動が大きな影響を受けました。学区大運動会は児童種目のみの半日開催で実施しましたが、保護者の方の参観はご遠慮いただくざるを得ない形となりました。また、1学期は授業参観を行うことができず、保護者の皆さまに子どもたちの学校生活の様子を見ていただくこともできませんでした。コロナ禍前に比べれば、制限も多く不自由が続きましたが、子どもたちの多くは「学校はたのしい」「授業はわかりやすい」と感じているようです。新しい学校の生活様式に適応できるようになったこと、昨年度の反省を生かし、工夫して授業や行事を行ってきたこと、各家庭の積極的な協力があつたことなどが反映されていると考えます。また、本年度より授業にタブレット端末を利用できるようになったことも関係しているのではないかと思います。しかし、問①、問③についての保護者の評価は低下しています。すでに述べたように、子どもたちの学校生活の様子を直接見るができなかったことが影響しているとも思われますが、評価を真摯に受け止め、授業や行事の質を一層高めるとともに、日課の変更や、生活のきまりの見直しなど、学校生活の基盤となることがらにも注意深く目を向けながら、充実した学校生活を送ることができるよう様々な手だてを講じていく必要があると考えます。

右の項目は、児童相互、児童と教職員との関係に関わるものです。問⑤、問⑥については、昨年度より数値の向上が見られます。困りごとを1人で抱え込まず、周囲の力を上手に借りながら解決に向かうことができるとよいと思います。

本年度は、児童の登校時刻を昨年度までより少し遅らせるとともに、教職員の勤務開始時刻を早めることで、児童の登校直後から担任が子どもと一緒に過ごすことができるようにしました。児童の様子を把握し、適時適切な指導ができる時間を少しでも増やすためです。また、いじめアンケート

を基にした児童との面談や、追調査の実施による児童の人間関係の把握は継続して行っています。長い放課に子どもと一緒に遊んだり、話を聞いたりして、教師サイドから児童へのアプローチに努めています。児童から自発的に教師に相談をするには、未だ垣根が高い面があると思われませんが、少しずつその垣根が低くなるよう努めたいと思います。問⑦の数値は昨年度と大きな違いはありませんが、問④「思いやりの気持ちをもって生活している」と感じている児童が多いのに対し、問⑦「いやなことをされたり…なやむことはなかった」という児童の割合は高いとは言えません。児童が相互に思いや考えを尊重し合い、安心して生活することができるように、日常生活での見守りや指導に一層の注意を払うとともに、道徳の時間の指導にも力を入れていく必要があると考えます。

次に、児童の生活習慣に関わる質問項目に注目してみると、昨年度に比べ、数値の低下が見られます。特に、問②のあいさつについての評価が低くなっていることが目を引きます。校内においては、あいさつ隊を中心とした毎朝のあいさつ運動は継続しており、多くの児童があいさつ隊のメンバーとして積極

質問項目		R3	R2
①学校はたのしい	児童	87%	85%
	保護者	82%	88%
③授業は、わかりやすい	児童	85%	84%
	保護者	63%	70%

質問項目		R3	R2
⑤こまったときに、相談できるともだちがいる。	児童	88%	81%
	保護者	77%	74%
⑥こまったときに、相談できる先生がいる。	児童	74%	68%
	保護者	73%	72%
⑦いやなことをいわれたり、されたりしたことで長い間なやむようなことは、なかった。	児童	76%	77%
	保護者	80%	81%
④クラスのともだちやなかまを大切にし、いつも思いやりの気持ちをもち、生活している。	児童	92%	91%
	保護者	/	/
⑤先生たちは、あなたたちのことを思いやり、きちんと話を聞いたり話をしてくれたりしている。	児童	93%	88%
	保護者	87%	88%

的に参加しています。しかし、マスクをしていると口元が見えない上に声がくぐもってしまうため、あいさつをしていることがわかりにくい場合があります。コロナ禍特有のことではありますが、あいさつという基本的なコミュニケーションが阻害されている可能性もあると思われます。我々大人がさらに意識して、あいさつのお手本を示していく必要があると考えます。

問⑧、問⑨に関わって、本年度は活動の仕方が変わりました。日課を変更して朝の読書タイムをなくし、かわりに、2・3時間目の間の放課に、全校をA・B2つのグループに分け、一方が元気アップタイム、一方が読書タイムというように、交互に活動することにしました。元気アップタイムや読書タイムの後は自由に外で遊べます。非常に多くの子どもたちが外で遊んでいます。また、校舎内部改造によって図書室が南館2階に移りました。多くの教室がある本館から離れているため、アクセスしづらくはなりましたが、担任が図書室を利用する機会を設けて図書に触れるようにしています。毎週月曜日の読み聞かせも、十分な回数は実施できませんでしたが、子どもたちは楽しみにしていました。家庭では読書をする姿が少ないようですが、学校では今後も本に親しむ機会を確保していきたいと思います。

問⑩については、はげみノートを用いた自主学習を取り入れました。子ども自身の興味・関心に基づいた自発的な学習ができるようにするためです。低学年では難しいことですが、学年が上がるのに従って、はげみノートを上手に活用できるよう指導していきたいと思います。

問⑪、問⑫については、多くの子どもたちが高い意識をもっているようです。家庭でしっかりと指導に力を入れていただいていることがわかります。充実した学校生活の基礎となることなので、家庭での指導に感謝したいと思います。今後も、「生活チェック」や保健だより等を通じて、「早寝早起き」や「しっかり朝ごはん」について情報発信を行っていきます。

最後に、昨年度新設した質問項目についてです。国際的な調査では、日本の子どもたちの「自己有用感」や「自己肯定感」は低いとされています。自分自身のよさを認め、自己実現の充実感を味わわせることは、子どもたちの健やかな成長にとってとても大切です。学校生活の中で、様々な体験や学習を通して、子どもたちがそれぞれのよさを発揮し、意欲的に生き生きと活動できるように指導や支援をしていきたいと思います。

最後に、昨年度新設した質問項目についてです。国際的な調査では、日本の子どもたちの「自己有用感」や「自己肯定感」は低いとされています。自分自身のよさを認め、自己実現の充実感を味わわせることは、子どもたちの健やかな成長にとってとても大切です。学校生活の中で、様々な体験や学習を通して、子どもたちがそれぞれのよさを発揮し、意欲的に生き生きと活動できるように指導や支援をしていきたいと思います。

質問項目		R3	R2
②学校だけでなく地域でも、あいさつや返事が、よくできる。	児童	82%	85%
	保護者	68%	81%
④宿題や提出物は、わすれない。	児童	79%	78%
	保護者	79%	82%

質問項目		R3	R2
⑧そとで、ともだちとあそぶことがすき。	児童	85%	82%
	保護者	84%	87%
⑨読書がすきで、本をよくよんでいる。	児童	72%	73%
	保護者	57%	54%
⑩「ふこうずっ子の家庭学習」に書かれている学習時間のめやすをまもっている。	児童	79%	79%
	保護者	67%	69%
⑪早寝早起きを守って健康な生活をしている。	児童	80%	72%
	保護者	88%	91%
⑫しっかり朝ごはんを守って健康な生活をしている。	児童	92%	87%
	保護者	62%	65%

質問項目		R3	R2
⑬ともだちや家そくのやくにたつように、自分にできることをすすんでやっている	児童	81%	78%
	保護者	77%	78%
⑭いっしょうけんめいがんばって、勉強や運動をしてよかったと思ったことはありますか。	児童	92%	87%
	保護者	74%	77%

今後に向けて

今回のアンケートや、PTA役員、地区・学級委員の皆さんへのアンケートを見てみると、「学校での子どもの様子を知りたい、見たい」という保護者の皆さんの気持ちが強く伝わってきました。しかしながら、本年度もコロナ禍の影響を受け、コロナ禍前のように教育活動を実施することはできず、学校の様子をみていただく機会も十分とは言えませんでした。しかし、PTA作業の後に校内参観ができるようにしたこと、分散での授業参観、「It's ふこうず show time!」や校内マラソン大会が保護者参観のもとで実施できたことはとてもよかったと思います。本来ならば当たり前前にできるはずのことが、思い通りにできないという不自由さをもどかしく感じるところです。今後もコロナ禍による制限や不自由さはついて回ると思いますが、知恵を絞り、工夫をして学びを止めないようにしていきたいと思います。保護者の皆さんはもちろんですが、学区コミュニティやPTA、同窓会等からも意見や協力をいただきながら、深溝小学校の児童が健やかに成長していけるよう努めたいと思います。

以上の分析に基づいて、今後の学校・学級運営に生かしていきます。なお、紙面の都合上、すべての項目について紹介はできておりませんがご了承ください。ご協力ありがとうございました。